

大地と生態系と人の物語

大地（ジオ）の語り部をご紹介します



平田 寛さん

【プロフィール】ラフティングと吉野川に魅せられて、2001年から三好市に住み始める。一般社団法人ラフティング協会のマスターガイド。現在は、アウトドアステーションTOPSのラフティングガイドを行っている。

ジオパーク認定を目指している三好市の中にはすでに、「大地（ジオ）」の特徴を自らつかみ、地域内外で発信している方がたくさんいます。そんな方々を「大地（ジオ）の語り部」と位置づけ、ご紹介します。

川は生き物です

吉野川を目の前に「川は生き物です」と熱く語るのは、ラフティングガイドの平田寛さん。今回の「大地（ジオ）の語り部」です。平田さんに、「なぜ、川は生き物と思うのか」を伺いました。



ラフティングの安全性およびコースを決めるために一番必要なものとして、川の変化を読む力があり、その力をガイドは求められます。吉野川は水量と地形によって変化し続けている

め、毎日の川の水量と気象（雨量）のチェックは欠かせないそうです。「吉野川の水量は、上流部の早明浦ダムの放水流量や山間部の雨量によって絶えず変化しています。なので、僕らはいつもツアー時、アメダスで雨量や早明浦ダムの放水流量を確認しています。早明浦ダムで放水された水は、その水量によって吉野川の各地点に到達する時間が異なります」。水量が多くなると、吉野川の岸辺にも変化がでてきます。

「大雨が降って吉野川が大増水した時には、今まで無かった大きな石が流されたり崩れてきたりしてラフティングコース中にあること位置と水量とを見極めて、ラフティングボートの下るコースを考えます。また、大雨後には岸辺の崖が崩れた様子もラフティングボートから確認できます」。ラフティングガイドは「川の水

がなぜ蛇行しているか。そしてその流れの中にどんな細かな流れがあるか」ということを理解し、さらに「その流れにラフティングボードをどう乗せて進ませるか」ということを考えているそうです。常に川の変化を見ているからこそ、次のように語れるのかもしれない。「水量がある時ない時、川の地形が変わる時、パドルに感じる水の重さ」。そういった吉野川の表情の変化を感じた時に、川は生きていると思うのです」。

吉野川とラフティングのベストな関係

ラフティングの舞台となる河川とその激流セクションには、その激流度合いによって「河川グレード」というものがあり、クラス1〜6まであります。1は基本的に小さな波ができるくらいの流れで、6はラフトボードでは通過不可能なくらい激しい流れのところ

吉野川は通常時クラス3〜4で、増水時4〜5、ラフティングシーズン中は常に水がある状態です。吉野川は、シーズン通して川の水温が暖かいのが良いところ（夏の水温が20度くらい）。半袖短パンでラフティングできることが、吉野川の良いところではないでしょうか。また、ラフティングによって、普段簡単に行けないような場所にも行くことができます。天然記念物および名勝に指定された大歩危をはじめ、小歩危も国道から降りて川辺に行くことは危険で困難です。しかしながら、ガイドを伴うラフティングでは容易に吉野川の岸辺にたどり着くことができ、間近で岸辺の岩石や地層を通して地球のダイナミックな活動を感じ取ることが出来ます。

吉野川の魅力を肌で感じる事ができるウォータースポーツ、ラフティング。10月3日から9日まで吉野川を舞台に世界ラフティング選手権が開催されます。ラフティングの選手たちが大地（ジオ）を巧みに読み取りながら競い合う様子を観戦しませんか？

【お問い合わせ先】

三好市教育委員会 文化財課 ☎72-3910



地域おこし協力隊 活動報告

三好市教育委員会 生涯学習・スポーツ振興課 勤務

すすきた 薄田 かつひこ 克彦



ウォーターキッズ「イケダコイレブ」が誕生

池田町イタノの池田湖でウェイクボードのアジアシリーズが開催されました。会場に特設されたステージ上に、三好市在住のキッズたち12名が、心が張裂けそうな緊張した面立ち、大きな声で自己PRを行いました。2018年8月28日〜9月2日に三好市で開催されるウェイクボード世界選手権大会の世界の舞台にチャレンジするために選ばされるキッズたち。「世界の舞台にチャレンジしたいです」「うまく滑れるようになります」中には「芸能人になりたいです」とそれぞれが想いを語りました。

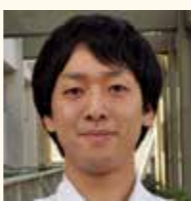


▲池田ダム湖でウェイクボード世界大会 世界大会を目指すウォーターキッズが決定

審査委員（葛哲二郎映画監督、タレントの江藤菜摘ちゃん、アジアカムボード協会長の薄田克彦）の心を感動させた12名全員が合格し、「ここに世界に羽ばたく「イケダコイレブ」が誕生しました。これから、キッズたちには世界トップクラスのコーチが指導者となる育成プログラムが用意され、世界でも有数のウォータースポーツの環境が整った池田湖で世界チャンピオンを目指した練習が始まります。かつて、葛監督が率いる池田高校の球児「さわやかイレブン」の活躍により、この街は全国区となり、市民の夢と希望でした。次は「イケダコイレブ」が世界に羽ばたく姿に市民が夢と希望を抱くようになった時、この街の新たなページが開かれることになることを確信しています。ウォータースポーツによる地方創生という新しいチャレンジという機会を与えてくれた三好市の皆さん。本当にありがとうございます。

三好市役所 地方創生推進課 勤務

いのうえ 井上 たくと 琢斗



若者の挑戦が始まっています！

現在祖谷の産品を使った、新しい軽食を開発するプロジェクトをコーディネートしています。栄養学を学ぶ徳島の大学生12名が参画しており、秋頃の完成を目標に取り組んでいます。開発のコンセプトは、単に美味いだけでなく、祖谷の特産やストーリーを含んだ商品を開発すること。プロジェクトのキックオフとして、7月に祖谷について学ぶ合宿を行いました。さまざまな人との対話や地域の見学、農業の体験などを通して祖谷はどういう地域であり、



▲徳大生が祖谷の産品を使った商品開発に向け合宿。地域の方との勉強会を行った

どのような文化があるのか、地域で暮らす人々の生活はどういうものかなどを学びました。現在試作の段階に入っています。若者たちが祖谷の新しい名物が完成することを目指して奮闘しています。また、他には「キノコを核とした循環型集落づくり」というプロジェクトにオーストラリアと東京の大学生1名ずつの計2名が参加しました。10日間で地域を学び、今後事業を進める上での提案や戦略を事業団体へ提供することを目的に活動しました。結果として広報に関する提案とその文章を日本語と英語で作成してもらいました。今後こちらを活用して団体の活動PRや、次なるインターンシップ生の獲得へとつなげていく予定です。今後もこうした三好市の皆さんの「新しい挑戦」を、学生と一緒に取り組む仕組みづくりを進めていきます！